

78 今年度最後の「セミナー」が終わった！その中にいる？トップリーダー達?!

堂本 彰夫

(1) ある意味、「教育政策トップリーダー」の名に値する人達が、このセミナーに参集している?!

過日 (3/27)、昨年度最後の「教育協働セミナー」(第22回)を終えた。そして、それで、2周年となった!思い起こせば、たったの2年ではあるが(実感としては、もっと長いような気がするが?)、本当によくやってきたものである?!何せ、それ以前の私からすれば(最低限のパソコン操作能力!しかも、対面的、直接的な集まりに、圧倒的な信頼を寄せていた?エセヒューマニスト?!)、まったく想像もつかない、それこそ驚天動地?の変わりようである!いくらコロナ禍であって、そうしたことしか出来ない状況であったとしても、まさかこんなことになるうとは??時代は、変わったものである!

しかるに、これについては、次回「第23回予告案内」にも書いたが、現在岡山県在の諏訪英広君(川崎医療福祉大学教授。一応、私の大学時代の教え子?)と、彼が前職で担当していた、兵庫教育大学大学院教育政策リーダーコースの学生?(みなさん、相当のキャリアの持ち主!)の一部と始めた、このセミナーであるが、その諏訪君の後(背中?)押しと、当リーダーコースの面々の積極的な参加姿勢が、不甲斐ない形で大学教員職を辞していた私に、新たな活力(退職後の生き甲斐?ある種の意地?)を与えたということである?!その意味では、感謝の極みである(もちろん、それ以前の、若い、最後のゼミ卒業生達との交流・活動もそうであるが!)!

ただし、そうは言っても、「教育協働セミナー」と銘打つての、原則月一回の開催であるが、なかなか、私はともかく、私以外の他のメンバーは、それぞれ忙しい生活・毎日を送っているため、毎回の参加は、かなり難しいのは、ある意味当然である(土曜日午前ということもあって!)!しかも、テーマ(話題)も、ある意味行き当たりばったりの中でのそれであり(ある種の綱渡り状態?だが、今のところ、それも仕方がない?)、連続性や深まりといった点では、かなり不満を抱かせるものであることは、素直に名状しなければいけないであろう!

とは言え、突然?ノミネートされるにも拘わらず、積極的に話題提供していただく参加者ばかりであり、その意味では、彼らは、「教育政策トップリーダー」の名に値する人達であるとも言えるであろう?!お世辞抜きで、そのようにも感じる(もちろん、キャリア自体がそうである!)!流石である?!その後も、同コースの、他のみなさん達の追っかけ?参加も凄まじく(何ということだ!恐るべし兵教大!)、一方で、沖縄県内外の関係者(私の友人・知人・教え子達?も含めた!)の参加も増え続け、全体としては、かなりの規模のセミナーとなりつつある(当然、その都度の参加者数には凹凸があるが!)?!改めて、本当に嬉しいものである!

なお、現在、本セミナーは、そうした参加者の全国的な拡大と、一方の、沖縄県内のみなさんとのネットワークの確立(広がり)を企図して、第一部県内版、第二部全国版という形で行い始めているが、まだまだその途上にあることは言うまでもない!まったく分離(独立?)させるのもよくないし、かと言って、どちらかの話題提供(テーマ)、あるいは情報交換では物足りない、さらには直接のメリットがない?というような反応も、本音の部分ではあるかも知れない(何せ、各自には貴重な日時ではあるので!)?!もちろん、全員が、両方のプログラム(セミナー)に参加してもらえればいいのであるが、そうもいかないであろう(例えば、月2回というようなことは、私以外の参加者にとっては、大きな負担となる?)?!

(2) 最後の60代!ある意味での勝負の一年?!

ということで、現在、現実的対応として、沖縄県内版セミナーを、言わば「前座的に」行っているわけでもあるが、私自身は、こういうことをあれこれ考えての主催(主宰?)をさせてもらってはいるのである!いずれにしても、折角?ここまで来たので、今後は、こちらも、一方では独立実施し、いい意味でのデュアル、そして、改めてのコラボ開催となれば、さらに嬉しい限りではあるが、今年度、果たしてこれがどうなっていくのか?期待と不安?が相半ばする現在である!

しかし、そんな中、実は来月で、ついに最後の60代を迎える私であるため、そうしたことがいつまで続けられるのか?一方では、そうしたことも、内心では思いながら(身体的には、かなり限界に達している?)、これを書いているのも事実である!したがって、今年一年が、その意味での勝負の一年となることは、多分間違いないであろう?!まだまだ若い!そう言われることは覚悟の上だが、そう思っているのである(しかも、もう一つ別の仕事?つまり、最後のやりたいこともある?)!

いずれにしても、上記については、少し説明(自己確認?)が必要である(この場には相応しくないが!)!上では「勝負の年」とは書いたが、それは、決して私自身が、他の何かを積極的に仕掛け、そのことで勝負?をするという意味ではなく(最早、そうした立場や条件はない!気持ち的にも!)、今やっている、この「教育協働」への呼びかけ(セミナーの開催等)が、それぞれの現場のみなさんにとって、もうこれ以上は要らないのではないのか?言い換えれば、これ以上のエール(手助け)にはならないと判断される場合は、潔く辞めるということである!しかも、そうしたことは、漠然とした思いではあったが、随分以前から意識していたことである!

ちなみに、そのケースは、理屈的?には、「一応やれることは、すべてやった!これ以上のことは、関係者のみなさんが、それぞれに発展・継承させていけばよい!」という場合と、「もう、これ以上やっても、事実上はあまり実はない(喜ばれない?)?むしろ、一部の人に迷惑や負担を強いている?」、そのように判断される場合のどちらかであろう?もちろん、それ以外の理由も、突発的に生じてくるかもしれないが、一応、前者の場合であれば、この上なく喜ばしいことではある!

だが、もし、後者の場合であれば、多少は?複雑な結末とはなる?!とは言え、誤解されては困るが、たとえ、そうだったとしても、それは、まったく、その人達が悪いのではなく(みんな、それぞれに頑張っていると言えば、まさにそうなのであるから!)、私自身の、つまり、ある一時代を生きてきた(悪戦苦闘してきた?そして、未練や後悔も多々有している?)人間の、そのことに対する、ある一つの訣別(ふん切り?)ということであるからである?!否、ただ単に、老害?になりたくないということかもしれない?とにかく、この1年は、私にとっては、多分?大きな節目の一年になることは明らかであり、その意味で、体力と気力、その双方で、やれるだけのことは精一杯やらなければいけない!そういうことなのである!

(3) 改めて、セミナー(オンライン交流)以外にも、大事にしなければいけないものがある?!

以上、今回は、私自身の胸の内(私的事情)を書かせてもらったが(ある人達には、複雑な思いにさせるものであるかもしれないが?)、これもまた、私のキャラと受け止めてもらって(あくまでも表面上は?)、これまで通りのつき合いや新たな交流をお願いしたいということになるが、ここで、一つ追記しておきたいことがある!それは、セミナー(オンライン交流)以外にも、大事にしなければいけないものがあるということである?!メールや電話での交流であるが、そもそも、私が「岳陽舎」と名付けた、この「教育協働研究所」なるものは、所縁のある人、思いのある人との交流、出会い(再会)の場とすべく設けたものである(物理的には、小さな自宅の単なる一室?である!もちろん、我が奥さんの理解と協力を得てのものであるが?!)!

とは言え、今般のコロナ禍においては、ここでの直接の出会い(再会)は、本当に少なくなっており、その思いは、ある意味風前の灯火?ともなっている(本当に残念であり、悔しくもある!)?!しかしながら、電話やメールでの対応(交流)は、一応?コンスタントに行っている(つもりである?)!多少物足りなさも感じるが、今は、それこそ重要なチャンネルではあるので、こちらの方にも、改めて力を注ぎたいということである!

そんな中、最近、先の国社研の社会教育主事講習で出会った(オンライン下ではあるが!)、かなり異質な(面白い?)Sさん(現在、県内教育事務所の家庭教育支援アドバイザー?をやられている!)が、私の、HP上の連載記事に反応してくれている!こうしたことも、私の大きな喜びであり、また、その任務?であるとも思っているので、これからも、一人でも多くの人達のアプローチを期待している!以下、ここでは、折角でもあるので、今回の分(メール)を紹介したい(Sさん、事後承諾とはなりますが、よろしくご寛恕下さい!).

論稿 77「政策トップリーダー」は居るものなのか?創られるものなのか?について、【感じ気づいたこと】文面に(の?)「エンパワーメント」の中で、組織を運営管理する管理職が部下や周りに対してどの様な「エンパワーメント力」を活かせるかと感じました。つまり潜在能力を持った人に「その能力を開花させる」ことが出来るかを問われているのではないかと思います。

【管理職】→部下の能力開花のための自己能力分析手段の手数/能力が活かされる職務配置

エンパワーメントを仕組みとして位置づけをした場合の運営の最適化と、「人」として位置づけした場合の「能力を最大限に発揮できる適材適所」のマネジメントを「管理する側」のオプションとして持っているかで変わるのではないかと感じました。つまり、歳を重ねるということはそれなりに知識や世の中の動き社会問題等(地域・個人的な)の理解や見解があり、多様な考え方や行動を起こすことができるはずだと思いたい(自分はどうだろうかと思うが・・)。だからこそ生涯学習を通して歳を重ねることは「気づき」を重ねること(の?)一つになると改めて気づかされました。

前説が長くなりましたが、ここからが本題です。部下の能力開花のための【自己能力分析の手数】ですが、占いというジャンルも大いに活用できるのではないかと思います。使い方ですが、例えば易学や数秘学など統計に基づいた提案をすることで、部下の潜在能力のを見つけ方や気づかせ方に大いに役に立つと思いました。

【数秘】に関してはとても効果的な手段だと自分自身も感じました。昔から、医者半分ユタ(※沖縄県と鹿児島県奄美群島の民間霊媒師(シャーマン)であり、霊的問題のアドバイス、解決を生業とする)とある。)半分といいますが、使い方なので全てが正しいとは思いませんが、手数がある上司とない上司では「人」の適材適所、効果的な能力発揮が見込めないとおもいました。長々となりましたが、今回の論稿から気づいたことでした。ありがとうございます。

以上であるが、「占い」とか「数秘(学)」とかについては、私にはまったく分からないが(アンタッチャブルな世界?)、これまで私が出会ってきた人とは、かなり感触(雰囲気?)が違う(「講習」の時から感じていた!)?!したがって、かなり怪しくもあるが?、なかなか面白いとも思っている次第である!今後、「社会教育士」を名乗って?、いかに活躍されるか?こうしたことも、今の私には、新たな楽しみ(期待?不安も?)なのである!